THE LION'S ROAR

ISS INTERNATIONAL SCHOOL SINGAPORE CAMPUS

潜在力の実現

MAY 2018

www.iss.edu.sg

マーガレット・アルバレズ
校長

2017～2018年の学年が終了するにあたり、1年を振り返り新しい学年を期待する時期になりました。

今年度は、学校の戦略計画の中心的要素の1つである「能動的なグローバル市民精神」を発展させることに集中してきました。教職員は、この分野の最善の事例を調査するために膨大な時間を費やしてきました。その結果、小学部で母国語向上プログラムを発足し、中学部と高校部では学生グローバル市民精神認識プログラムを展開しています。加えて、小学部チームは国際的に関心の高いテーマに対する生徒の声と行動を強化するためにPYP展示会を改善させました。参加した生徒全員に心から敬意を表します。来年度もこのようなプロジェクトが行われることを願います。

来年度は今年度と関連していることですが、生徒たちの文化間の能力を伸ばす機会を与えることができるように、「多様性の祝賀」に焦点を絞るつもりです。最近経済協力開発機構(OECD)の教育部署はPISAグローバル能力評価を発足させると発表しましたが、本校はこのような能力を開発させる必要があることを認識してきました。教育開発の最前線に立つことができ、嬉しく思います。

ニュースレターを見ると、多忙な学校生活の中で数か月間行われた活動に焦点を置いていたことが分かります。ここには中学部の才能公演、中学部のスチーム(STEAM)週間、小学部のキャンプ、PYP展示会、高校部のMYP芸術公開行事、12年生の卒業が入っています。そして、春季スクールの成功をお祝い申し上げます。

この間2018年部（12年生の卒業生）にお別れの挨拶をしました。卒業生たちが優秀な大学の入学許可を得たことを誇りに思います。卒業生全員の人生の新たな門出をお祝いするとともに、皆さんのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

最後に、1年間ISSファミリーのメンバー全員が見せてくれた努力に感謝いたします。是非、楽しい夏休みをお過ごしください。在学生の皆さんは8月にISSで会いましょう。本校を卒業する皆さんの幸運を祈ります。

マーガレット・アルバレズ
(Dr. Margaret Alvarez)
小学校校長

CONTENT

02 ISSについて見る:
子どものための正しい教育とインターナショナルスクールを選択する方法

05 理事会のメンバーを見る:
設立者家族のリーダーシップ
– チャン・チー・セン会長 (Chan Chee Seng)、チャン・チン・オイCEO (Chan Ching Oi) そしてチャン・ムン・副会長 (Chan Mun-E)をご紹介します。

06 学生たちの成就と貢献:
エスプラネード(The Esplanade)で開かれたIBディプロマプログラムコンサート
中学部のプログラム芸術公開
中学部/高校部の陸上大会（Track & Field Day）
中学部の才能公演
中学部のスチーム(STEAM)週間
PYP (Primary Years Programme) 展示会
小学部のキャンプ（3, 4, 5年生）
12年生の卒業

11 本校の卒業生:
私は川崎まお
(Mao Kawasaki)

12 主な行事:
春季スクール2018

13 過去の行事:
学校の活動
3月 – 5月

15 今後の行事:
期待の行事
6月

16 シンガポールの あれこれ:
今後の行事

試行錯誤を重ねて自我を発見

子どものための正しい教育とインターナショナルスクールを選択する方法

「学校から大学、職場に至るまで生徒に準備させる上で必要なスキル（skills）は常に変化し、同時に劇的に変化します。学校のプログラムは、このような変化を見据えてプログラムの内容を再編成する必要があり、過去のプログラムをそのまま使うことができません。」
- ステファン・ホームズ博士、教育マーケティングおよび教育評論（Dr Stephen Holmes。PhD Education Marketing and Reputation）。

グローバル化（globalisation）とデジタル化（digitisation）は今の時代のトレンド（trend）です。このようなトレンドは、生徒が新しい経済環境の中で生き残ることがができるように生徒に準備させるスキルセット（skill-sets）を養成する必要があります。生徒たちは次のような能力を伸ばさなければなりません：

- 問題を提起して解決；
- 発見して、新しい知識と思考力（証拠をベースにした思考）を得られるようにする研究調査；
- 自分の学習を管理して他人と協力；
- 新しい状況に創意的かつ革新的に適応；
- 多様な対人関係能力を通じて、効果的かつ説得力ある意思疎通；
- グローバルなマインド；
- 起業家精神；
- 常に誠実、信頼、責任感があり謙虚な態度；

このような能力は、生徒たちが柔軟な態度や倫理性を育む上で重要な役割をしますし、文化が異なり自分とは異なる視点とベースを持つ人と協力することができるようにします。また、これらの能力は、ビッグデータ（big data）を使って分析することにより、結論を導き出す批判的なマインドを育みます！

このような能力を開発するために、学校はこのような変化に対応するカリキュラムと教育法を準備する必要があります。これは、生徒が卒業した後に正しい能力、態度および心の姿勢で社会的共同体に肯定的に貢献していくことができる、幸福で達成感を感じる大人になれるようにサポートします。

グローバル化（globalisation）とデジタル化（digitisation）は今の時代のトレンド（trend）です。このようなトレンドは、生徒が新しい経済環境の中で生き残ることがができるように生徒に準備させるスキルセット（skill-sets）を養成する必要があります。

学校がこのような準備をする理由はなんでしょうか？
複数の学問にわたった教育に重点を置き、探求をベースにした学習環境を備えた学校。生徒が楽しく勉強することのできるスキルをもつ学校。革新的かつ進取的なマインドをもつ学校。

ISSインターナショナルスクールは、なぜこのような基準に合うのでしょうか？

- 多様な学問にわたる教育に重点をおいた探求ベースの学習環境

これはISS教育環境のベースとなっているものです。私たちは、できる限り幼い年齢から、すなわち、4歳から幼稚園部で創意的に考え、批判的な思考をするように教育します。教師は、生徒が調査・発見して結論を導き出しながら成長して学んでいけるように励ます補助の役割をします。探求をベースにした学習を実践し、自我を発見するプロセスの1つとして、革新的で洞察力を備えることができるように学生たちを励まします。これらの価値は、グローバル社会の複雑な社会に生徒たちが順応していけるよう準備させます。典型的な例：4歳の生徒は、正方形は4つの面が同じだということを知りません。形の違いを区別できるように実験できる環境が与えられます。自ら発見して自分のものにしていく経験を通じて、正方形の性質について結論を見いだすことができます。このようなプロセスを推し進めることで生徒が成長して発展していくことができます。

ISSは、多分野の学習環境（multi-disciplinary learning environment）に焦点を当て、生徒がグローバル教育を通じて多様な環境にさらされるように生徒に準備させます。特定の学習文化や学習方法にとらわれません。「グローバルな世界は予測できません。;私たちが直面する事態や問題は同じ形態でない場合がほとんどです。そのため、本校では、生徒に多様な環境を与えて適用する能力を培うことができるように教育を行っています。生徒たちが様々な角度と側面から問題を見つめることができるように、本校では様々な分野の学問にわたってアプローチしています。」とISSのIBカリキュラム責任者のジャンゴ氏(Mr. Jungo)は述べます。「個人的に、生徒の今までの考え方に向き合っていきます。問題を目に見える部分だけで判断したり、自分の文学的または宗教的な背景に基づいて結論を下さないように導きます。前後関係に基づいて問題を見つめ、常に疑問を抱いて新しい知識を養うために広範囲の分野の本を読み、問題を解決するために必要な新しい思考を開発するために自分の持っている知識を状況に合わせて適用させることができなければなりません。」

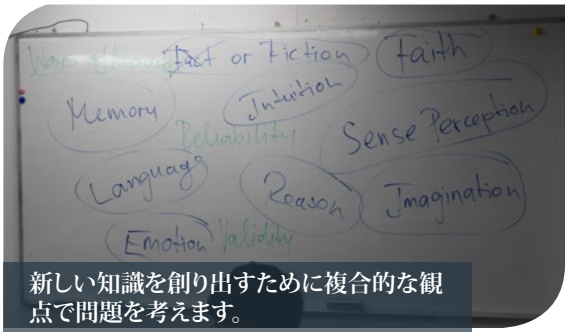
卒業生のヨハンナ（Johanna）は、ISS時代のことをこう述べています。「ケンブリッジ（Cambridge）で法学の学士号を取得し、現在はユトレヒト（Utrecht）大学で法学の修士課程を勉強しています。ISSでは、見える部分だけで問題を捉えず、バランスのとれた視点を成長させるために、与えられた多様な視点を理解して研究する方法を学びました。そのおかげで、法科大学で事件について最終的に判断して議論するとき、批判的に思考しながら公正でバランスの取れた態度を維持することができるようになりました。」これは、ISSの探求をベースにした多学際的な教育環境の多くの成功例の1つに過ぎません。

- 子供たちが満足しながら勉強できるようにする能力

「ISSでの経験は、私の子供たちにとても有益なものでした。個人的に成長しており、多くのことを学びました。ISSには、子供たちがもっと勉強したくなる何かがあります。今では、子供たちが勉強や学校生活に対してとても肯定的に考えるようになったとを感じています。朝いくら疲れていても起きてきて学校に行くのを楽しみにしています。」とISSの保護者のマリン（Malin）は語ります。

これはISSの根本となる文化を適切に描写している良い例です。ISSの文化は、包容的な哲学と学問へのアプローチに基づいています。包容的というのは、単純な多国籍を超えた概念です。包容性は、すべての生徒のニーズに対応することを意味します。統合的な学習環境は、最も優秀な生徒から学習のサポートが必要な生徒まで、すべての生徒のためになると固く信じています。重要な教育活動を実践する上で、本校の優秀な教師陣は、すべての生徒がISSの包容的な教育文化の中で必要なものを得て成長できるようにサポートし、生徒中心にアプローチしていくように準備ができてます。生徒にはみな異なる学習戦略が必要です。ISSの教育環境が、これらのニーズを満たしていることをお伝えできて嬉しく思います。生徒たちは自律性が与えられ、勉強することで目標を達成することができるということを認識しています。すべての子供たちを満足させ、達

非常に幼い年齢からプロジェクトを調べることをお勧めします。



新しい知識を創り出すために複合的な観点で問題を考えます。

ISSのポリシーは、複合的な観点で問題を調査・研究して各自のケースを発表することです。

生徒の作品を楽しみ、生徒のために最善を尽くす熱心な教師たち

成感を感じさせ、学ぼうとする熱意を持てるようにします。本校が採用した差別化された学習方法は、生徒たちにとって魅力的なものです。「先生が非常に熱心に教えてくれることが分かります。先生たちは学生に少しでも多くのことを教えてあげたいという熱意を持っています。各科目の先生たちから多くのサポートを受けたおかげで、ほとんどの授業を心から楽しめます。こういった点が、おそらくISSの最大のメリットだといえます。先生は、こういった配慮や重要性が学生に向くようにする能力を持っています。」と、ISS卒業生のアシミタ（Ashimita）は語ります。

水準の高い国際教育は、英語を駆使する、学問的に優秀な生徒だけのものであってはいけません。人生で優位を与える教育を受ける権利はすべての生徒にあります。本校に入学した生徒はみな、世界の優秀な大学に進学したり、満足できて達成感を感じる別の進路に向かう可能性を秘めていると信じています。ISSは、生徒たち各自が個人の次元の成功を達成することができるように尽力しています。

楽しむ生徒 = 動機が明確な生徒= 楽しい学校生活

ISSは包容的な教育に専念していることを誇りに思います。

- 革新的で進取的なマインドの学校

教育は、単に学校でしかできないものではありません。これは、行動としての奉仕（Service as Action - 小学部と中学部）と創意性、行動、奉仕（Creativity, Activity, Service, CAS - 高校）、その他の目的のための活動がISSのIBプログラムの重要な要素になっています。これらの活動は、生徒が共同体の中で活動しながら自分の長所を発見することができるようにサポートします。社会的に責任ある態度と思慮深く穏当な行動の開発を教育に導入するために、教育は知識に限定されてはならないという哲学がベースになっています。これは、高潔、信頼性、責任感、謙虚さを持った大人として生徒を成長させます。

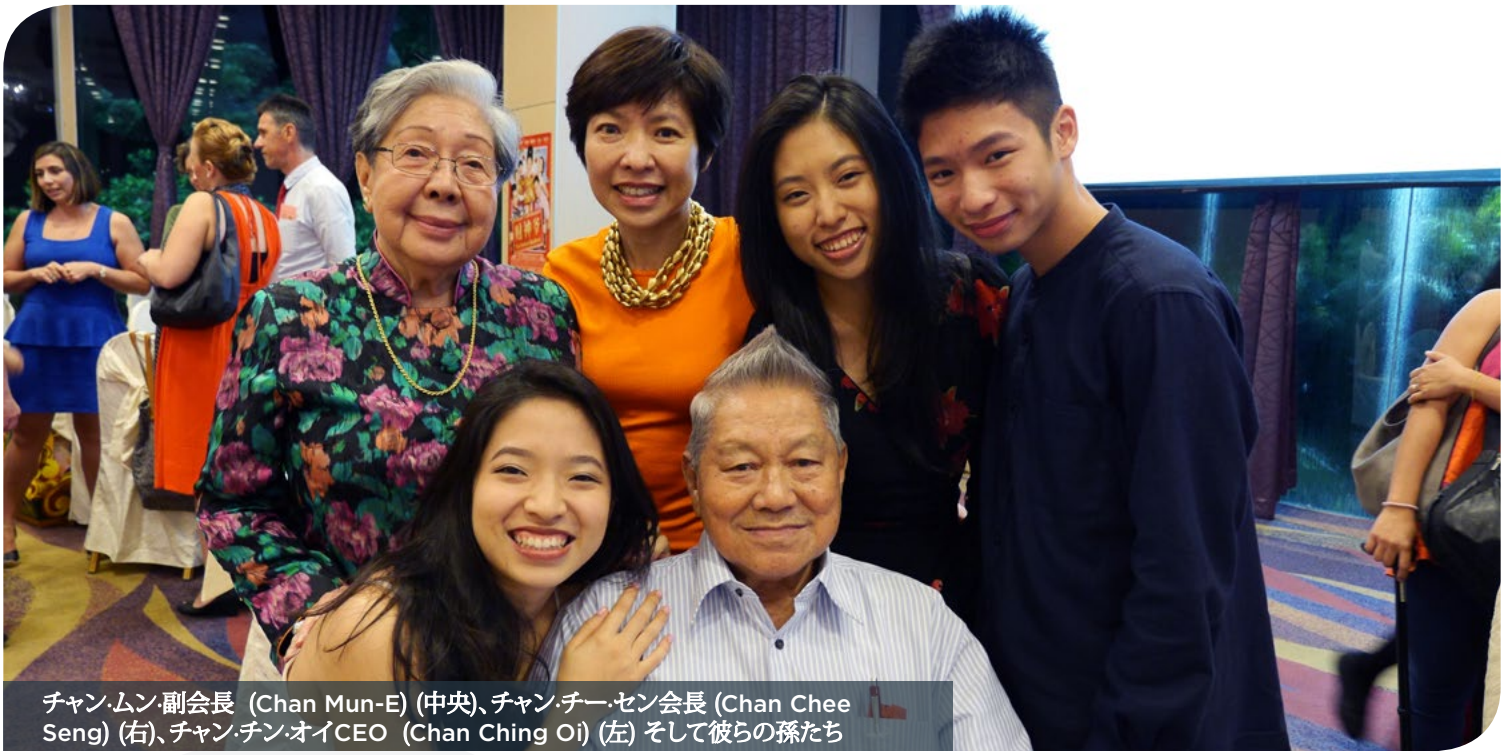
CASは、生徒が共同体組織の中で活動しながら、自分の長所を発見できるようにサポートします。

「学校は、どんな点が当初意図したとおりに行われていて、どんな点を改善することができるか常に検討しています。これによって、教師は最善の方法を確認することができ、最善の方法は進化し続けています。親は最高の水準で教育が行われていることを確認できるので安心することができます。」と、ISSの保護者のモニカ（Monica）はいいました。

ISSインターナショナルスクールは、シンガポールで最も歴史のある3つのIBプログラムスクールのうちの1つです。生徒の可能性を固く信じ、すべての生徒が自分の最大限の可能性に到達することができるようにサポートするために情熱的に力を注いでいます。豊かな多様性、生徒の成果、人生において変化し続けるニーズに対応するために、生徒が必要で正確な能力を開発することができる独自の学習環境を備えていることに本校は誇りを感じます。

設立者家族のリーダーシップ

– チャン・チー・セン会長 (Chan Chee Seng)、チャン・チン・オイCEO (Chan Ching Oi) そしてチャン・ムン・副会長 (Chan Mun-E)をご紹介します。



チャン·ムン·副会長 (Chan Mun-E) (中央)、チャン·チー·セン会長 (Chan Chee Seng) (右)、チャン·チン·オイCEO (Chan Ching Oi) (左) そして彼らの孫たち

1950年代末にチャン・チー・セン氏 (Mr. Chan Chee Seng)が初めて政治の世界に入ったとき、彼は自分は奉仕に合わない人間だと考えていた銀行員でした。1984年に政府を引退したときは政務次官(Senior Parliamentary Secretary)の役職に登りつめるほどの学習曲線をたどりました。独立国家としてシンガポールの政治的激動と変遷の歴史を共に歩んだ彼は、教育の改善と社会発展のための教育の中枢的な役割とは何か確信をもつようになりました。 教育部長官だった晩年のゴー・ケン・スウィ(Dr. Goh Keng Swee)が後押しして1981年にISSインターナショナルスクールを設立、自分の信念を地域に限定されたものから、より世界的なものまで展開してきました。

彼の家族は同じ信念の遺伝子を持っています。カリフォルニア大学のSFメディカルセンター(SF Medical Center)で薬学の修士課程を取得し、1993年シンガポールの総合病院で薬学部署の責任者をしていたチャン・チン・オイCEO(Mrs. Chan Ching Oi)は、夫をサポートするために年俸を貰える仕事を辞めました。以前、シンガポール衛生省庁の医薬品製造および購入部の責任者でもありました。

彼らがこのような積み上げた経歴をその年齢で潔く捨てることにした決断はその当時夫婦に大きな変化をもたらしました。事実、チャン夫妻(Chans)は新しい世界の新しい世代に変化を与えるために努力に拍車をかけました。1981年にISSが設立された当時、ISSは初めて国民が設立・運営するインターナショナルスクールでした。ミセス・チャン(Mrs. Chan)は医療と製薬分野で培った広範囲に及ぶ管理の経歴を教育に適用させました。

彼らが前からリードし、アメリカのインディアナ大学から帰ってきてDBSグループで企業担当の銀行員としてキャリアを積み始めた娘のチャン・ムン・エ(Chan Mun-E)はニューヨーク州立大学のバッファローキャンパスの学校相談学修士課で学び始めました。

財務と教育分野の能力を家族の偉業に注ぐことに専念しながら、ムン・エ(Mun-E)は、学校内の幾つかの部署で勤務し、すべてのキャンパスで時間を過ごしました。彼女は、ISSインターナショナルスクール理事会の副会長です。

変化に立ち向かう彼らの勇気と不屈の精神、そして個人的な旅行で垣間見た彼らの率直なマインドがISSを動かしていることを証明しています。

エスプラネード(The Esplanade)で開かれたIBディプロマプログラムコンサート

演奏を終えた生徒たち

聴衆の前で演奏します。

DP(ディプロマプログラム)コンサートは、生徒たちが驚くべき才能を披露する公開行事です。最終学年である12年生による演奏がその中でも最高です。多くの時間を費やして練習に励んできた成果を発揮して 、ジャンゴラインハルト(Django Reinhardt)からベートーベン(Beethoven)、アデーレ(Adele)までの素晴らしい演奏を披露しました。多様なスタイルで自分たちの才能を思う存分発揮しました。最終学年の成功的な公演に続いて、低学年のクラスも印象的な公演を演出しました。多様な文化や音楽、そして献身的に努力で才能に花を咲かせた幻想的な夜でした。

中学部のプログラム芸術公開

リサイクル材料で作った楽器で合間に演奏している

今年MYP公開行事のプロセスで、生徒たちは台本の喜劇的な側面を定義するのに有用な文体を使用して視野が広がりました。期待する反応を引き出すために成功要素となる自然主義(naturalism)を通じてボディーランゲージ(body language)や空間や言い方がいかに重要か学ぶことができました。

MYP公開行事を準備する過程で、メンバーはみんな多様なIB学習者プロフィール(IB Learner Profiles)を見せてくれました。それぞれ意思を伝える者、リスクを受け入れる者、開放的なマインドを持った俳優になりました。観衆に向かって潜在能力を最大限発揮するために、喜劇的や特別な協調を必要とする演劇の側面を強調しながら、コミュニケーションの学習者のプロフィールを探求しました。以前の定着した枠から抜け出して、新しい性格と台詞を伝える方法を探し求めることによって、公開行事に参加した生徒たちはリスクを受け入れる姿勢が育っていきました。最後に、9年生と10年生の生徒たちは公開行事の脈絡に合わせるために台本を評価してユーモアの変化を理解するときに、はじめて開放的なマインドを持つようになりました。

ここでの私の役割は、それぞれ別々の2人と一緒にそれぞれ別々の原稿を1つにまとめることでした。この原稿を完成させるために必要な重要な能力は、いろんなスタイルの観衆がみんな楽しめる原稿を作るためにアイデアを引き出す能力がとても重要で必要でした。メンバーたちは自分に与えられた原稿を完全に分析して観衆に伝達しながら、監督としての能力を培いました。

- シェジン(Schezin)、ISSの生徒

「妖精さん、私は星になりたいの。」

生徒たちによるドラマ公演中

中学部/高校部の陸上大会（Track & Field Day）

全力で走る選手たち。頑張れ~~!

2018年の優勝チーム – オーチャード(Orchard)

2018年に卒業する生徒たち

空高く舞い上がる選手

2018年中学部/高校部の陸上大会は、2つのキャンパスに在学中の6年生から12年生までの生徒が全員参加する待ちに待った行事でした。

ペスタ・マラン（Pesta　Malan）競技場は、生徒が体育の授業で培った能力と知識を思う存分発揮できる理想的な場所でした。

サポートを惜しまずに活気に満ちた雰囲気の中、ISS共同体のみんなが思い出に残るスポーツの瞬間を一緒に共有しました。

オーチャード（Orchard）チームが今年の優勝を飾り、発表することができて光栄に思います。

参加したすべての選手に感謝いたします。来年も全員参加して、より充実した学校の行事になることを期待します。

ポール・クローザー（Paul Crozier）-陸上/運動監督、体育科目主任

中学部の才能公演

2018 年3月8日セラングーンホール(Serangoon Hall)で中学部の才能公演が開かれました。7年生と8年生のドラマクラス、ECA公演で個人の部の生徒、8年生のフランス語クラスの特別ゲストたちが企画・製作したメドレー(medley)祝賀公演でした。

公演は1時間行われ、50人以上の生徒たちが様々なジャンルの喜劇、モノローグ、歌を披露しました。

ある生徒は、自分の公演に対して次のように感想を述べました。

「私は、歌を3曲とダンスを1曲選びました。選択したトゥモロー(Tomorrow)、アイフィール・プリティ (I Feel Pretty)、Mr.セロファン(Mister Cellophane)、アイフィールグッド(I Feel Good)の歌詞はみんなエネルギーに溢れて振り付けも力強い構成になっています。10代の私たちがいつも確信と自信がみなぎるわけではないことを表現しました。でも、明日はきっともっと良い日になるということを心に刻んで、ポジティブに考えるように自分を励ましたかったんです。心から信じれば勝利できるし幸せになれる、もっと強く立派になれると思います。-と、ISS学生のフアイヤオ(Huaiyao)は述べました。

楽しく立派な公演にするために多くの時間と努力、そして苦痛を伴う時間を投入した若い生徒の皆さんに心から敬意を表します。個人で公演した生徒もグループで公演した生徒もみな物知りで反省することができる立派なIBの生徒の模範像を見せてくれました。

ブルーノ・アレン－レボン (Bruno Alen-Lebon)
ドラマ＆フランス語専任教師

楽しい公演

ハクナ・マタタ(Hakuna Matata)の最後の歌とダンス

中学部のスチーム(STEAM)週間

「私が発表する内容は、これに関する・・」

「それでは、レーザーは何でしょうか?」

7年生の展示

4月9日から13日まで中学部でスチーム(STEAM)　週間が開催されます。

スチーム (STEAM)は以下の略字です:
S – 科学 (**Science**)
T – 技術 (**Technology**)
E – 工学 (**Engineering**)
A – 芸術 (**Arts**)
M – 数学 (**Mathematics**)

スチーム(STEAM)週間のお祝いは、本校が取り入れている多学際間による学習アプローチ法に関する1つの例えです。6年生から8年生たちは、人類愛について学ぶ授業で、探求するUN持続可能な開発目標((UN Sustainable Development Goals (SDGs))を通じてこのアプロ―チ法を生徒たちにはっきりと提示します。このような目標を認識するようになり、目標が社会経済的な開発問題を処理・解決するための方式、様々な分野の共同体に影響を与えて差別性を与えるために生徒たちができる役割とは何かを人類愛の次元で考えます。スチーム(STEAM)　週間に、生徒たちが自分の展示物や発表物を調査・製作・発展させるために、仮定の設定、解決法案、そしてモデルを通じて科学の授業で学んだ知識を引用しました。

スチーム(STEAM)週間は、活動が盛りだくさんな日程で組まれています。デモンストレーション、展示、対談、双方向の対話が行われました。

8年生は「未来のための電磁石または近代化のための金属」というテーマで発表しました。彼らは探求ベースの学習をしっかり理解できていることを証明し、徹底して調査を行いました。発表の最後に、自分たちが選んだテーマが将来の世界に及ぼす影響について仮定し、学校で学んだことが将来の変化に影響を与えることができるという事実を理解しました。

7年生の協働作業による展示会は、気候の変動によって起こる自然災害に耐えられる持続可能で回復力のある住宅を提示しました。これには多くの創造性と革新がありました!生徒たちは、気候の変動に関する問題を提示するために、新鮮で興味深い解決方法を考案しました。あるグループの生徒は、固定観念を破って山火事に耐えることができるアリゾナ州(Arizona)の住宅を設計しました。

6年生は、自分たちが作った浄水フィルターを熱心に展示していました。直接浄水フィルターで実演してみせたり、製作に用いた材料を非常に詳しく紹介したりしました。小学部の生徒たちも6年生たちから学ぼうとやってきたりと、楽しく、興味深い双方向体験でした!

また6年生は、潜在的に環境にプラスになる方法として、プラスチック容器(この場合にプラスチックボトル)を再利用する「持続可能な容器」を設計しました。自然分解されていないプラスチック製のボトルを植木鉢として再利用できる「持続可能な容器」に作り変え、いくつかの植物で使えるようにしました。また、できるだけ多くのゲーマーを誘い込むために、7年生は工学や数学、設計能力を発揮して面白いパチンコ(Pachinko)ゲームを提供していました。

続いて、4人のゲストスピーカーと本校の演劇の先生であるレボン(Mr.　Lebon)の発言がありました。ゲストスピーカーは、海洋生物学者、生物エンジニア、WWFの教育担当代表者、バンブーストローガール(the Bamboo Straw Girl)のメリッサ・ラム(Melissa Lam)の4人でした。海洋生物学者と生物エンジニアは当然スチーム(STEAM)の科学、技術、工学分野に関する発言をし、それぞれの分野における業務や責任ある実践方案を作成するために努力を分かち合いました。

スチーム(STEAM)の芸術分野では、バンブーストローガール(the Bamboo Straw Girl)のメリッサ・ラム(Melissa Lam)が持続可能な実践方法について話している間、レボン(Mr.　Lebon)は、科学技術をドラマに統合させることに関して語り(さらに、これを強調するために、ドラマクラブの生徒が「ユーリンタウン(Urine Town)」を公演するようにした)、WWFシンガポール教育担当代表は、気候の変動、気候の変動により人間と動物が受ける影響、私たちの地球を救うために貢献できる方法について話しました。

スチーム(STEAM)週間の最後に、展示活動を熱心に行った生徒たちは、拡張現実技術を用いた気候の変動に関する興味深い双方向型の活動に招待されました。生徒たちは、iPadで武装してホールの周りを回りながらゲームに熱中しました!ゲームを始めるには、まず初めに生徒たちはWWが部屋に貼っておいた質問に答えて星を獲得しなければなりません。その後、気候の変動に関する問題と関連する4つの絵の中から絵を1つ選ぶと、iPadにゲームが映し出されます。
このゲームは拡張現実技術が使用されているため、生徒たちは「正確な」方法で絵と相互作用しなければならず、一部は椅子に登ったり、正確な角度にするために絵を移動させたりしました。このようなゲームを通じて、生徒たちは「蒸気(steam)」を発散できただけでなく、ゲームをしながら気候の変動に気付くことができました。

スチーム(STEAM)週間は、中学部の生徒たちに経験と「豊かな知識と情報」を与えてくれました。各自が行った探求をベースに作業し、経験豊富な実務メンバーの発言を聞き、教育的なゲームに参加することなどを通じて、生徒たちは未来のための肯定的な変化に役立つ知識を得て週間を終えました!

PYP (Primary Years Programme) 展示会

今年、5年生のPYP展示会では素晴らしい学習結果だけでなく、自己管理、社交、コミュニケーション、マインド、研究を調査する能力などを見せてくれました。生徒はみんな科目のテーマについて情熱的に探究する間、共同作業に没頭していきながら、こういった能力が磨かれていきました。

環境にやさしい-旅行や文化：環境にやさしい-デザイン-節減/リサイクル/再利用方法：環境問題、そして私たちが生活の中でできる部分：互いに異なるダンスのジャンルやスタイルを比較：食べ物や健康な食事の重要性：スポーツや活発に生活することが大切な理由：動物保護：認字能力の開発の重要性：技術/コーディング/プログラミングなどは、この日に発表されたテーマの中の1つに過ぎませんでした。

生徒たちは、展示やテーマを紹介するために自分たちが制作したビデオを発表するだけでなく、保護者、教師、ISSの友だち、理事会メンバーが深みのある意味ある方法で没頭できるゲームや多様な活動を制作しました。また、環境問題を発表したチームは、プラスチック製の食器や器具の使用を控えるだけでなく、レジ袋の使用を減らすために、レジ袋に料金を賦課することによって環境を守ろうという内容を手紙に書いて企業に送ったりしました。本当に素敵な計画でした!

「こういった機会を通じていろんな能力が培われました。私は、チームのメンバーと観客が来る前に展示物を準備するだけでなく、与えられた時間を超えないように時間を上手に配分して、他の展示物も見て回ることができる時間を確保するために、まず優先的に自己管理をしました。また、展示会の準備をする間、私たちのチームが主張を正確に伝えて印象深い展示にするために最も重要だったのは、研究調査と思考能力でした。」

ーサラ(Sara)。ISSの生徒

マインド、研究調査、自己管理能力のすべてを PYP展示会に注ぎました。

「私の自己管理能力が伸びました!」

展示会でコーディングとプログラミングを強調しています。

小学部のキャンプ（3, 4, 5年生 ）

今年の3, 4, 5年生のキャンプは楽しさ満点で、学年の最後を飾るにふさわしい素敵な時間となりました。

3年生のキャンプは5月3日~4日にパシール・リス(Pasir Ris)のチェリー・ロフト(Cherry Loft)で、4年生と5年生のキャンプは5月2日~4日にセンバワン駅(Sembawang)の男女共用団体キャンプ場と、国立コミュニティリーダーシップ研究所(National Community Leadership Institute)でそれぞれ開かれました。

このキャンプは、若い生徒がチームの中で協力する方法を身につけ、自立心を養い、責任とは何かを学ぶことができる絶好のチャンスです。

生徒たちはみなキャンプを楽しんでいました。

「このキャンプでは、グループ単位で行動し、新しい人と知り合うという、チームで仕事をする上で重要なスキルを学ぶことができました。ある活動においては、個別に作業することが要求され、自立心を育むことができました。また、家を離れて一晩過ごしたということは、自分の所持品や身の回りを管理する、例えば荷物の整理から始まり家族と離れて寝たり、シャワーしたのか確認するなど、自分のことは自分でしたことを意味します。

-ISSの生徒のエニコ(Eniko)とファイザン(Faizaan)

3年生による砂の城大会

柱を登るクラスの友だちのために前方を確認してロープを掴んで、チームワークの大切さを学んでいる4年生の生徒たち

5年生のアーチェリータグ(archery tag)-勝者VS教師!

12年生の卒業

ついにやり遂げたぞ!

12学年の皆さん、卒業おめでとう!

心温まるお別れのハグ

生徒代表演説者のロイ (Roy)

12年生の卒業とともに1年が終わりました。2018年度の卒業式は5月18日の金曜日に行われ、必要なすべての課程を終えて卒業した卒業生を心からお祝いしました。卒業生は、ISSで自分に与えられた機会を充分に活用し、教室の内外で多くのことを成し遂げました。

12年生たちは、年例「壁のないウィーク」(Week Without Walls)旅行や模擬国連総会、その他の注目すべき活動に参加しました。また、ISSで率先して計画を立てたりしました。つい昨年、生徒会会長のチェルシー(Chelsea)はクラスメートのカミル(Camille)と全校生を一つにまとめて、乳がん患者のためのピンクリボンウォーク(Pink Ribbon Walk)に参加するために先頭に立ちました。DPプログラムの学業の負担や生徒会会長としての責任があるにもかかわらず、彼らは生徒と教職員が後押しする中で署名を集め、大規模なISS代表団を結成して、行事の当日に準備できるようにイベントプランナーと協議しました。ISSで生徒が主導する計画の一例としてISS インターナショナルスクールが国立環境庁(National Environment Agency (NEA))の公式電子廃棄物処理パートナー(e-waste disposal partner)になったことがあります。これは12年生のジェイソン(Jason)、タリシュ(Tarish) 、ビクター(Viktor)の努力のおかげでした。彼らは、電子廃棄物が自然環境に及ぼす被害に対して認識するとき、学校の共同体が実践でき貢献できる役割とは何か国立環境庁に提案書を提出し、これを実現するために教師や教職員たちと努力することを決意しました。企業家的なマインドの素晴らしいケースだったと言えます。生徒が残したこういった遺産は、必ず全世界に変化を与えるでしょう。

生徒たちは、学業面でも決して遅れをとっていません。生徒の多くが全世界の有数な大学から入学許可を受けました。

アジア/オーストラリア
香港大学(University of Hong Kong)
メルボルン大学(University of Melbourne)
ニューサウスウェールズ大学(University of New South Wales)
慶応大学(Keio University)

ヨーロッパ
ライデン大学(Leiden University)
ヴァーヘニンゲン(Wageningen University & Research)
トゥウェンテ大学(University of Twente)
ローザンヌホテルスクール(École hôtelière de Lausanne)

イギリス
ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン(University College London)
インペリアル・カレッジ・ロンドン(Imperial College London)
キングス・カレッジ・ロンドン(ロンドン大学)(King's College London)
エディンバラ大学(University of Edinburgh)
マンチェスター大学(University of Manchester)
ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(London School of Economics)
セント・アンドルーズ大学(University of St. Andrews)

アメリカ/カナダ
ジョンズ・ホプキンズ大学(Johns Hopkins University)
ミシガン大学(University of Michigan)
カリフォルニア大学バークレー校(University of California, Berkeley)
トロント大学(University of Toronto)
マギル大学(McGill University)
カリフォルニア大学LA校 (University of California, Los Angeles)

多くの活動や楽しさと笑いに溢れていた12学年の卒業生の皆さんの一年間に渡った旅は決して忘れられません。12学年の卒業生の皆さんの幸運をお祈りいたします。皆さんがISSで学んだことは、将来必ず生かされるはずです。私たちは今後も常に皆さんに注目し見守っています。いつでも学校を訪ねて来てください。教師一同楽しみにしています。

ISSの卒業生

卒業生を全世界に輩出しており、ISS国際学校共同体で重要な役割をしています。今後のネットワークイベント、専門家の講演、年次同窓会や対話の場のような校内行事に卒業生を特別に招待する予定です。

3月の春季スクールで母親のツムラ（Ms. Tsumura）と可愛い子供たちと一緒のマオ（Mao）

私は川崎まお (Mao Kawasaki)

私は川崎まお(Mao　Kawasaki)といいます。1995年から1997年までの2年間ISSに通いました。

日本語を使う環境で成長したので、外国語を学んだり外国の人たちと親しくなる必要性を感じませんでした。ところが、シンガポールで長年日本語を教え、現在ISSインターナショナルスクールで複数の学年の学生たちに日本語を教えている私の母のツムラ・ミホ（Ms. Miho　Tsumura）は、私が国際的な環境の中で成長して経験することを望んでいたので、ここISSで学ぶことになりました。

今考える機会と、ISSで勉強したときに考えていた機会は明らかに違っていました。外国語に全く興味がなかったので、ISSで過ごした2年間は大変でした。しかし、外国語学習や外国の文化に触れあった経験は、私に本当に多くのチャンスを与えてくれましたし、これらの経験を通じて、この期間に価値があり貴重な時間だと感じるようになりました。ISSでの経験は、日本の田舎から来た若くて内気な女の子を、能動的で独立した旅行が好きな人に変えました。特に、ISSで共に過ごした様々な国の友だちは私の大切な宝物となり、今でも連絡を取り合っています。この友人たちから多くのインスピレーションを与えてもらっています。

現在、私は可愛い3児の母となり、日本の東京に住んでいます。第3子を出産して育児に専念していましたが、その育児休業が今終わろうとしています。以前、日本の貿易/投資会社で危機管理業務の担当していたのですが、その職場にもうすぐ復帰する予定です。ISSで得た経験とISSで受けた影響がまさに今日の私の一部を作っているといえます。ISSで個人的に受けた恩恵がとても大きかったので、私は2018年3月のISS春季スクールの春休みのプログラムに長男と次男を参加させることにしました。子供たちが春季スクールで英語を学べる機会を与えられただけでではなく、世界の色んな国から来た新しい友達と出会って思い切り楽しむことができました。6月の夏季スクールにもまた送りたいと思っています。

ISS在学中のマオ(Mao) 。友だちと一緒に。

ISSに感謝しています。

卒業生が生涯学習の旅で何を達成し、ISSでの生活が現在どのような影響を及ぼしているのかを聞きたいと思います。フェイスブックに登録して、卒業生の最新のニュースやイベントをご覧ください。

www.facebook.com/groups/isssgalumni/

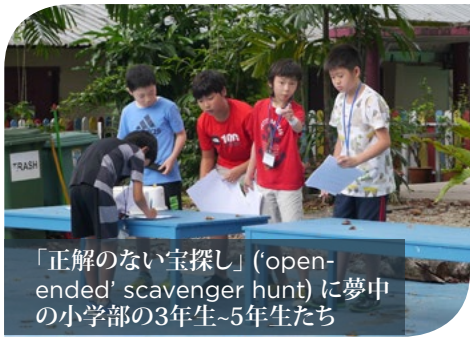
春季スクール2018

読書タイム!

「これで合ってる?」

感覚を利用した学習

発表するために一生懸命勉強中!


「正解のない宝探し」('open-ended' scavenger hunt) に夢中の小学部の3年生~5年生たち

発表

昨年、その基礎を土台として2018年に春季スクールを成功的に発展させました。全コースで2倍以上の生徒たちが参加しました!生徒数が増えたので、クラス単位で年齢別のグループに集中して授業を行えるように、クラスをさらに増設しました。英語のプログラムでは、多様なゲームと活動を通じて、生徒たちは各自の言語能力をベースとして、さらに英語の能力を積んでいきました。生徒は、討論や発表、宝探しなどの多様な活動に参加しました!生徒たちが学習に対する情熱を育んでいく姿をみていると本当に頼もしかったです。プログラムは生徒たちがチームワークとコミュニケーションのようなソフトスキル(soft skills)を開発するのに役立ちました。

2週間の春季スクールを終えて、生徒たちは沢山の経験と英語能力という大きな収穫を得ました。言語においてスピーキング、リーディング、リスニング、ライティングという4つがベースとなりますが、みな自信をつけていたことが春が終わるころにはっきりと感じられました。その自信感は夏の今も変わらず生徒たちの胸に宿っています。

「春季スクールは楽しく、言語能力もアップしました。特に、リスニングとライティングが伸びました。ペレズ(Mr. Perez) 先生の授業はいつも面白くて理解しやすかったので、楽しく学ぶことができました。クラスの友達とも交流できたし、新しい友だちもできました。
アヤノ(Ayano), ISS 2018春季スクール

"ISSの春季スクールで新しい友だちができてとても嬉しかったです。一番楽しかったのは宝探しゲームで、頑張ってたくさん見つけることができました。」
ケイ(Kei), ISS 2018 春季スクール

「発表を通じて英語の実力がアップしました。グループ単位で一緒に協力しながら作業した活動が一番楽しかったです。」
カンジ(Kanji), ISS 2018 春季スクール

春季スクールに参加したら英語が好きになりました。休み時間は絵を描いて遊びました。
シパン(Sipang), ISS 2018春季スクール

学校の活動

3月 – 5月

中学部のスチーム(STEAM) 週間 (4月9日~13日)

中学部のスチーム(STEAM: Science, Technology, Engineering, Art, and Math) 週間は、生徒たちにスチーム(STEAM)がいくつかの領域を探求してスチーム(STEAM)に関連する活動に参加できる機会を与えました。

中学部のスチーム(STEAM) 週間

小学生と中学生が主管するカンファレンス(4月17日)

毎年、生徒たちが学校に親を招待して、子どもがISSでどんな1日を過ごしているか分かるように、授業で発表します。子どもの目線で学校の活動を見つめることができる絶好の機会です。

「パパ、そうじゃなくて、こうよ。」

小学部＋中学部の本の博覧会(4月17日)

本の博覧会では、小学部と中学部の生徒たちは新しい本を手に取って興味の世界を広げます。家の本棚に新しい本を増やす機会を持ちました。

本って面白いな!

小学部のPYP展示会(4月24日~25日)

PYPの生徒たちが今まで作ってきたプロジェクトを発表しました。生徒と教師そして保護者がみな学ぶことの楽しさに触れた2日間でした。

新しいことを一緒に学ぶ

高校部のMYP情報の夜(4月25日)

子どもたちが学校で学ぶ方法や家庭で勉強をサポートする方法について保護者たちに紹介しました。

MYP情報の夜

高校部のMYP芸術展示会(5月3日)

高校部のMYP芸術展示会では、生徒たちの個性にあふれた素敵な美術作品を展示しました。

多彩な質感や素材、スタイルで各自の想像力を思う存分発揮しました。

高校部の芸術展示会

小学部の3年生~5年生のキャンプ(3年生:5月3日~4日、4・5年生:5月2日~4日)

3年生から5年生はこの野外活動を最後に学年を修了しました。毎年開かれるキャンプは、チームビルディング(team-building) 活動が盛りだくさんで、楽しさの連続でした。

小学3-5年生のキャンプ

シンガポール総合病院での音楽フェスティバル(5月11日)

中学部の生徒たちは、地域社会の奉仕の一環としてシンガポール総合病院を訪れ、患者のために歌を歌い患者を励ましました。奉仕は午前中行われ、生徒たちは人を助ける喜びを知り達成感を得ました!

広がる楽しさ

高校部の卒業式(5月18日)

この日は、高校部の12年生の卒業式がありました。数年間勉強や活動を忍耐して励んできた生徒たちは高校生活にピリオドを打ちました。人生の新しい冒険に旅立つ彼らを応援してください!

遂にやり遂げたぞ!

10年生の作業の世界(5月21日~23日)

10年生たちは、自分が選んだ職場でインターン生として働きながら、職業体験をしました。3日間行われたインターンシッププログラムでは、多様な企業が多くの生徒を「受け入れ」ました。仕事を最後までやり遂げた後、その内容をレポートにまとめて提出させるなど、しっかりしたプログラムでした。

撮影中の職業体験に参加する学生

小学部/中学部-芸術展示会(5月25日)

芸術作品の展示会では小学部と中学部の生徒たちの芸術作品が飾られます。互いに異なる素材やアイデア、テーマに沿って作られた様々な作品が展示されました。

「これカッコいい〜〜!!」

期待の行事
6月

小学部ー水泳大会 (6月4日)

6月の水泳大会では小学部の生徒たちがいろんな水上競技に参加します。

位置について、よーい、ドン!

中学部の8年生の祝賀会(6月5日)

8年生たちは中学部を卒業し、来年高校部に進学します。楽しい祝賀会とともに中学部の旅を終えます。

祝賀会

アクション・デー (Action Day) の中学部の生徒の奉仕 (6月6日)

行動する奉仕はカリキュラムの中で大きな割合を占めます。シンガポールの地域社会で奉仕活動をしながら中学部の課程を終えます。

アクション・デー (Action Day)に奉仕活動をする中学部の生徒たち

シンガポールの今後のイベント

皆さん、こんにちは！お子さま連れやISSのご家族と一緒にグループで参加できる行事や意味深い活動などがあります。

ディシニ (DISINI) 野外彫刻展

ディシニ(DISNI)は、イベント・美術展示・一般人の参加で構成される視覚的芸術の祭典です。ここに 「over here」の意味をもつマレーの副詞ディシニ「di sini」からとり、その現場でインスピレーションを得ました。：一時イギリス軍のキャンプだった現代アートクラスター(cluster)のギルマン・バラックス (the Gillman Barracks).

ギルマン・バラックス
Gillman Barracks @ 9 Lock Road S108937

2018年1月26日~9月30日, 24時間解放

https://www.gillmanbarracks.com/others/gillman-barracks/1856

犬に関連するすべて　子ども展示会

この子どもたちの展示会は、犬年にピッタリ合った偶然の一致の賜物です。いろんな品種の犬が描かれた約300個の切手と切手の収集に関する資料だけでなく、最も親しい友だちに情報を伝達する多感覚双方向設置物を誇ります。

シンガポール切手博物館
Singapore Philatelic Museum @ 23-B Coleman Street, Singapore 17980

2018年2月14日~12月1日, 午前10時~午後7時

http://spm.org.sg/exhibitions/data/all-about-dogs

アンコール(Angkor)：カンボジアの隠された都市 (Cambodia's Sacred City) 探検

アジア文明博物館はパリのギメ東洋美術館 (the Guimet Museum)と共同で本展示会を披露します。

今日、アンコール遺跡が有名になったきっかけとなった、フランス人がアンコール遺跡に遭遇した当時の様子を表現したフランス絵画、写真、記念品と一緒に、世界的に有名な考古学的な段地と珍しいクメール(Khmer)の彫刻品が、ユネスコ文化遺産として公開されます。

アジア文明博物館
Asian Civilisations Museum @ 1 Empress Pl, Singapore 179555

2018年4月8日~7月22日
月曜日-木曜日、土・日：午前10時~午後7時
金曜日：午前10時~午後9時

http://acm.org.sg/whats-on/exhibitions/angkor